

6月12日 マルコによる福音書1章9～11節 今日の説教から

説教題：「神様に用いられて生きる」

言葉というものは、どれだけ豊かなものなのか驚かされることがあります。例えば、「肺炎」という病気には英語では「Pneumonia (ヌモニア)」という医学的な専門用語が使われます。この言葉はギリシャ語の「pneuma プネウマ(風、息、魂)」に由来する言葉であり、神様が天地創造の時に土の体に注いだ息である「プネウマ」が語源となっています。肺炎によって息が苦しい、どれだけ息を吸っても満足出来ない、神さまは私を見放したのか。そのように思ってしまうほどに、「呼吸をすることが出来ない」ということは根源的な苦しみを伴います。その苦しみが込められていると考えると、とても深い意味をもつ病名であると感じます。

ただ、ギリシャ語を知っている人ならそのように言葉から病気の内容を理解できますが、ほとんどの人がそうではありません。その意味において、私たちの使う日本語は字面から内容を理解しやすい、とても使いやすい言語だと言えます。この日本語の優秀さは、私たちの信仰生活の中では特に「祈り」というものの中で発揮されるのではないのでしょうか。

今日の詩編の言葉は、私たちがお手本にするべき祈りの一つだと思います。詩人の苦難を前提として、神さまであればそれを取り除くことが出来るという信頼と、信仰の実践によって神様への信頼を強めていく様子が記されています。偽証によって自分を陥れようとする敵を前にして、「どうか自分を救い出してください」という切なる祈りが捧げられています。

ただ、この詩篇は「主を待ち望め 雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め」と「呼びかける」言葉で締めくくられています。この詩は、神様に対して捧げられた、「私を助けてください」という祈りです。「主よ、呼び求めるわたしの声を聞き 憐れんで、わたしに答えてください」という切なる願いを神様に捧げています。それなのに、「主を待ち望め」と言っているのですから、最後は神様に呼び掛けているわけではありません。自分と敵対する偽りの証言者に「主を待ち望め」と言うのもおかしな話ですから、これはこの詩を読み上げる人物に向けて語られた言葉であり、同時にこの詩を聞くすべてのイスラエルの民に向けて示された希望の言葉でもあるのでしょうか。

隣人に対して偽証を行い、命を取り上げようとする人間への恐れに対して、すべてを導き守り養って下さる神様への信頼が強調されるこの祈りは、この詩人の特定の出来事を前提としながら、この詩を読む私たちすべての人に力を与えます。イスラエルの民が他の国々から攻め入れられるときに、神様の言葉を取り次ぐモーセがイスラエルの民から攻め立てられるときに、またイエス様が十字架につけられる時にも、初代教会の信徒たちが迫害を受ける時にも、この祈りの言葉は「神様が自分たちの正しさを証しして下さる」という希望の光となりました。悪意ある偽証によって、知識のない人の無理解によって、教会の歴史の中で繰り返される迫害の中で、それでも「神様を尋ね求める人を、神様は必ず引き寄せてくれる」「必ず助け出してくれる」という希望へと導きました。だからこそ、私たちは自分の行いが神様のためになると信じて、日々の業に励むことが出来るのです。

天地創造の時、神様が私たちに注いだ霊は、土の器から生きる力を私たちに与えました。イエス様が洗礼を受けたその時に神様から注がれた霊は、イエス様が神様の愛する独り子であることを世に証しました。そして、聖霊降臨日に弟子たちに注がれた聖なる霊は、今も私たちに働き続けて、私たち教会を神様への信頼へと導いています。神様が善である方で、神様が慈しみにあふれた方で、神様が愛にあふれた方であることを信頼しているからこそ、私たちは神様に用いられて生きることが、正しい生き方であると感じることが出来るのです。

神さまに用いられて生きる希望に導かれながら、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書1章9～11節

- 9:そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

詩編27編1～14節

- 1:【ダビデの詩。】主はわたしの光、わたしの救い／わたしは誰を恐れよう。主はわたしの命の砦／わたしは誰の前におののくことがある。さいなむ者が迫り／わたしの肉を食い尽くそうとするが／わたしを苦しめるその敵こそ、かえって／よろめき倒れるであろう。彼らがわたしに対して陣を敷いても／わたしの心は恐れない。わたしに向かって戦いを挑んで来ても／わたしには確信がある。ひとつのことを主に願い、それだけを求めよう。命のある限り、主の家に宿り／主を仰ぎ望んで喜びを得／その宮で朝を迎えることを。災いの日には必ず、主はわたしを仮庵にひそませ／幕屋の奥深くに隠してくださる。岩の上に立たせ 群がる敵の上に頭を高く上げさせてくださる。わたしは主の幕屋でいけにえをささげ、歓声をあげ／主に向かって賛美の歌をうたう。
- 7:主よ、呼び求めるわたしの声を聞き／憐れんで、わたしに答えてください。心よ、主はお前に言われる／「わたしの顔を尋ね求めよ」と。主よ、わたしは御顔を尋ね求めます。御顔を隠すことなく、怒ることなく／あなたの僕を退けないでください。あなたはわたしの助け。救いの神よ、わたしを離れないでください／見捨てないでください。父母はわたしを見捨てようとも／主は必ず、わたしを引き寄せてくださいます。主よ、あなたの道を示し／平らな道に導いてください。わたしを陥れようとする者がいるのです。貪欲な敵にわたしを渡さないでください。偽りの証人、不法を言い広める者が／わたしに逆らって立ちました。わたしは信じます／命あるものの地で主の恵みを見ることを。主を待ち望め／雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め。